



国際音楽祭 NIPPON 2022 芸術監督: 諏訪内晶子

感動を紡ぐ: トップ・クオリティの追求 心をつなぐ: 演奏を通じた社会貢献 未来を創る: 次世代への継承

国際音楽祭NIPPONは、様々な機会を通して、豊かな音楽の世界を多くの方々と共有できる場を創ってまいります。

■諏訪内晶子 ヴァイオリン・リサイタル J.S.バッハ: 無伴奏ソナタ & パルティータ 全曲演奏会

Akiko Suwanai Violin Recital J.S. Bach Sonatas and Partitas for Solo Violin, BWV1001-1006

[名古屋] 2月11日(金・祝) 14:00 名古屋 三井住友海上しらかわホール

February 11 Fri. 14:00 Nagoya MS&AD SHIRAKAWA HALL

2月13日(日) 14:00 名古屋 三井住友海上しらかわホール

February 13 Sun. 14:00 Nagoya MS&AD SHIRAKAWA HALL

[東京] 2月16日(水) 19:00 東京 東京オペラシティ コンサートホール

February 16 Wed. 19:00 Tokyo Tokyo Opera City Concert Hall

2月18日(金) 19:00 東京 東京オペラシティ コンサートホール

February 18 Fri. 19:00 Tokyo Tokyo Opera City Concert Hall

■尾高忠明指揮 / NHK交響楽団 諏訪内晶子(ヴァイオリン)

Conductor: Tadaaki Otaka NHK Symphony Orchestra, Tokyo Akiko Suwanai (Violin)

2月21日(月) 19:00 東京 東京オペラシティ コンサートホール

February 21 Mon. 19:00 Tokyo Tokyo Opera City Concert Hall

■公開マスタークラス(ヴァイオリン部門) Open Master Classes (Violin)

3月3日(木)・4日(金) 横浜 フィリアホール(横浜市青葉区民文化センター)

March 3 Thu. / 4 Fri. Yokohama FILIA HALL

■～諏訪内晶子 & フレンズ～コンサート in 陸前高田(東日本大震災復興応援)

Concert in Rikuzentakata Supporting Recovery Efforts after the Great East Japan Earthquake

3月6日(日) 14:00 陸前高田 陸前高田市民文化会館(奇跡の一本松ホール)

March 6 Sun. 14:00 Rikuzentakata Rikuzentakata City Cultural Hall (Kisekinoipponmatsu Hall)

■諏訪内晶子 室内楽プロジェクト Akiko Plays CLASSIC & MODERN with Friends

Akiko Suwanai Chamber Music Projects

Akiko plays CLASSIC with Friends

3月9日(水) 19:00 東京 紀尾井ホール

March 9 Wed. 19:00 Tokyo Kioi Hall

Akiko plays MODERN with Friends

3月11日(金) 19:00 東京 紀尾井ホール

March 11 Fri. 19:00 Tokyo Kioi Hall

■ミュージアム・コンサート Museum Concert

3月12日(土) 19:00 名古屋 トヨタ産業技術記念館 エントランス・ロビー

March 12 Sat. 19:00 Nagoya Toyota Commemorative Museum of Industry and Technology Entrance Lobby

■ブラームス 室内楽マラソンコンサート Brahms Chamber Music Marathon Concert

3月13日(日) 東京 東京オペラシティ コンサートホール

March 13 Sun. Tokyo Tokyo Opera City Concert Hall

[第1部] 10:30 [第2部] 13:30 [第3部] 19:00

主催: ジャパン・アーツ / 日本経済新聞社 / 陸前高田市民文化会館(東日本大震災復興応援コンサートのみ)

共催: [愛知] 中日新聞社 / CBCテレビ [岩手] 岩手日報社 / IBC岩手放送 [横浜] フィリアホール(横浜市青葉区民文化センター)

後援: フィンランド大使館 / 東海新報社(東日本大震災復興応援コンサートのみ)

特別協賛: 豊田自動織機 TOYOTA 豊田通商 AISIN

協力: ユニバーサル ミュージック / トヨタ産業技術記念館(ミュージアムコンサートのみ)

企画制作: ジャパン・アーツ プログラム監修: 沼野雄司 / 船木篤也

マネジメント: [東京] ジャパン・アーツ [愛知] クラシック名古屋

制作協力: [岩手] 岩手県文化振興事業団



©TAKAKI KUMADA

INTERNATIONAL
MUSIC FESTIVAL
NIPPON

国際音楽祭 NIPPON 2022

芸術監督: 諏訪内晶子

ミュージアム・コンサート

3月12日(土) 19:00 トヨタ産業技術記念館 エントランス・ロビー



国際音楽祭NIPPON 2022

芸術監督: 諏訪内晶子

世界中が新型コロナウイルス感染症の影響による「禍」に突入し、はや2年の月日が経とうとしていきます。新変異株の出現もあり、様々に制限された日々が長く続く中で、これまで気に留めなかった「日常の出会い」が、私たちにとってどれほど大切なものであるかを、切実に感じる時間でもありました。

国際音楽祭NIPPONは、音楽を通した「出会い」の場として、「感動を紡ぐ」場であってほしいと願ってまいりました。演奏をお聴きいただくお客様、未来を担う若い方々と、かけがえのない演奏空間を共に過ごし、特別な「経験＝体感」を共有できることを心待ちにしております。

会場に足をお運び下さった皆様、この度も変わらぬご支援をいただいております。企業の皆様、関係の皆様にも厚く御礼申し上げます。

国際音楽祭NIPPON 2022
芸術監督
諏訪内 晶子

It has been nearly two years since the world was plunged into crisis by the Covid-19 pandemic. With the emergence of new variants and prolonged restrictions in our daily lives, this has also been a time when we have become keenly aware of the great importance of the “everyday encounters” we previously took for granted.

It has always been my hope that the International Music Festival NIPPON, as a setting for “encounters” through music, will be a space for the creation of emotion and inspiration. I am looking forward to spending time together in the irreplaceable performance space and sharing special, genuine experiences with everyone who comes to hear the performances, as well as the young people who are the future of music.

I would like to express my deepest gratitude to those who have come to hear the performances, to the corporations who have provided continued support, and to everyone who has helped make the festival possible.

Akiko Suwanai
Artistic Director
International Music Festival NIPPON 2022

ミュージアム・コンサート Museum Concert

3月12日(土) 19:00 名古屋 トヨタ産業技術記念館 エントランス・ロビー
March 12 Sat. 19:00 Nagoya Toyota Commemorative Museum of Industry and Technology, Entrance Lobby

望月 京: フィロジェニー (国際音楽祭NIPPON委嘱) <2022> (諏訪内/鈴木)
Misato Mochizuki: Phylogénie
Commissioned Work by International Music Festival NIPPON <2022>

ブラームス: 弦楽六重奏曲第2番 ト長調 Op.36 (ゴトーニ/諏訪内/鈴木/田原/上野/辻本)
J. Brahms: String Sextet No.2 in G major, Op.36

第1楽章: アレグロ・ノン・トロツポ	1st Mov.: Allegro non troppo
第2楽章: スケルツォ、アレグロ・ノン・トロツポ	2nd Mov.: Scherzo. Allegro non troppo
第3楽章: アダージョ	3rd Mov.: Adagio
第4楽章: ポーコ・アレグロ	4th Mov.: Poco allegro

■出演者

諏訪内晶子(ヴァイオリン) Akiko Suwanai, Violin	田原綾子(ヴィオラ) Ayako Tahara, Viola
マーク・ゴトーニ(ヴァイオリン) Mark Gothoni, Violin	上野通明(チェロ) Michiaki Ueno, Cello
鈴木康浩(ヴィオラ) Yasuhiro Suzuki, Viola	辻本玲(チェロ) Rei Tsujimoto, Cello

※当初予定していた出演者に変更がございます。

主催: ジャパン・アーツ/日本経済新聞社 共催: 中日新聞社/CBCテレビ
協力: ユニバーサル ミュージック/トヨタ産業技術記念館 マネジメント: クラシック名古屋

特別協賛: 豊田自動織機 TOYOTA 豊田通商 AISIN

望月 京:フィロジェニー

この作品が初演された「国際音楽祭NIPPON 2022」における諏訪内晶子さんの室内楽プロジェクト「Akiko Plays CLASSIC & MODERN with Friends」の2つの演奏会(「CLASSIC」:3月9日、「MODERN」:3月11日)のプログラムを並べると、「MODERN」コンサートの冒頭に置かれた本作は、ちょうど全9曲の中央に位置していました。

プログラム上は分断されているものの、音楽史上は連続性のある「古典」と「現代」とを、西洋音楽の伝統や慣習、その変遷への目配せによって連係するような音楽を意図して作曲しました。

進化に伴う生物の種や系統の分化や派生の変遷が、個体発生の過程において縮小形で発現するという系統発生論(フィロジェニー)になぞらえ、曲は、西洋音楽史の各時代を象徴するような、さまざまな作曲技法や形式、様式、概念、テクスチュアのいくつかを内包する音楽的慣用句が、姿を変え、繰り返し出現することによって構成されています。(望月 京)

望月 京(もちづき・みさと)

さまざまな領域への関心からもたらされる着想や、繊細さとダイナミズム、多彩な音色とバランス感覚に優れたユニークな作風が各地で注目を集め、オペラ(パン屋大襲撃)はじめ多くの委嘱作品が国内外で演奏される。芥川作曲賞、出光音楽賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞、尾高賞、ハイデルベルク女性芸術家賞ほか受賞。

ブラームス:弦楽六重奏曲第2番 ト長調 Op.36

「室内楽」が衰えかけていた19世紀後半において、これを再興させた作曲家。ヨハネス・ブラームス(1833-1897)は、間違いなく、その一人と言えます。ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロに各2挺を設ける弦楽六重奏には、2曲を残しました。第1番は1859/60年の作。こちら第2番のほうは1865年に完成していますが、一部の構想は、作曲家22歳の年、1855年に始まっていたようです。一般的な弦楽四重奏曲を書くよりも前に六重奏を選んだ格好で、これは音響上の特性を考えてのこと、また彼自身の中低音好みを反映したものでしょう。チェロに2挺があれば、うち1挺はハーモニーの下支え役から解放され、「旋律」を奏でやすい、というわけです。

ブラームスは、本作の完成をもって、かつての婚約者、アガテ・フォン・シーボルトへの思いから「解放された」と言ったそうです。大学教授の娘で、ふたりは相思相愛でしたが、1859年に作曲家の方から約束を破棄していました。そんな背景から、第1楽章に何度か現れる「ラ-ソ-ラ-シ-ミ」のモチーフ(ドイツ音名で a-g-a-(t)h-e)は、彼女の名前を埋め込んだもの、と推測されています。どちらかと言うと3つの音域をグループに分けてイメージした第1番に比べ、本作は「全体の響き」に意を注いでいるようです。このあと、スラヴふうの情熱が中間部ではじける第2楽章スケルツォ、変奏曲形式のゆったりな第3楽章ときて、舞踊ふうの第4楽章で締めくくられます。(船木 篤也[音楽評論])



© TAKAKI KUMADA

Akiko Suwanai

諏訪内 晶子 (国際音楽祭NIPPON2022 芸術監督/ヴァイオリン)

1990年史上最年少でチャイコフスキー国際コンクール優勝。これまでに小澤征爾、マゼール、デュトワ、サヴァリッシュ、ゲルギエフらの指揮で、ボストン響、フィラデルフィア管、パリ管、ロンドン響、ベルリン・フィル、N響など国内外の主要オーケストラと共演。BBCプロムス、シュレスヴィヒ=ホルシュタイン、ルツェルンなどの国際音楽祭にも多数出演。

2012年、2015年、エリザベト王妃国際コンクール、2018年ロン=ティボー国際コンクール、2019年チャイコフスキー国際コンクールヴァイオリン部門審査員。2012年より「国際音楽祭NIPPON」を企画制作し、同音楽祭の芸術監督を務めている。また、これまでにデッカより15枚のCDをリリースしている。

桐朋女子高等学校音楽科を経て、桐朋学園大学ソリスト・ディプロマコース修了。文化庁芸術家在外派遣研修生としてジュリアード音楽院本科及びコロンビア大学に学んだ後、同音楽院修士課程修了。国立ベルリン芸術大学で学び、2021年学術博士課程修了、ドイツ国家演奏家資格取得。

使用楽器は、日本にルーツをもつ米国在住のDr. Ryuji Uenoより長期貸与された1732年製作のガールネリ・デル・ジェズ「チャールズ・リード」。

Akiko Suwanai (Violin/Artistic Director of International Music Festival NIPPON 2022)

Akiko Suwanai was the youngest ever winner of the International Tchaikovsky Competition in 1990. She has performed with the world's foremost orchestras, including the Boston Symphony, Philadelphia Orchestra, Orchestre de Paris, Berlin Philharmonic, and NHK Symphony Orchestra, under the batons of Ozawa, Maazel, Dutoit, and Sawallisch, just to name a few. She has appeared in numerous international music festivals including the BBC Proms, Schleswig-Holstein, Lucerne and others. Suwanai was a jury member of the violin divisions of the Queen Elisabeth International Music Competition of Belgium in 2012 and 2015, the Concours International Long-Thibaud-Crespin in 2018, and the International Tchaikovsky Competition in 2019. Since 2012, Akiko Suwanai has been Artistic Director of the International Music Festival NIPPON, which she plans and produces. She has released 15 CDs on the Decca label.

Akiko Suwanai studied at Toho Gakuen Music High School and completed the Soloists' Diploma Course of Toho Gakuen College of Music. After studying at the Juilliard School and Columbia University on the Artist Overseas Training program sponsored by the Agency for Cultural Affairs, she received a master's degree in Music from the Juilliard School. She also studied at the Universität der Künste Berlin, and in 2021 completed the doctor of arts program and received the Konzertexamen degree, Germany's qualification for outstanding musicians.

Akiko Suwanai performs on the "Charles Reade" Guarneri del Gesù violin c1732, on long-term loan from Dr. Ryuji Ueno, who has Japanese roots and lives in the United States.



©Philipp Plum

Mark
Gothoni

マーク・ゴトーニ (ヴァイオリン)

フィンランドを代表するヴァイオリニストの1人。21歳でブラームス国際コンクールに上位入賞しデビュー。以来世界各国でソリスト、室内楽奏者として精力的に活動。母国フィンランドでは1998-2011年ラウマ音楽祭総監督、2001年よりサボンリンナ・ミュージック・アカデミーの室内楽部門監督を務める。2018年第1回「オーパス・クラシック(The OPUS KLASSIK)アワード 室内楽部門」受賞。コンサートヘボウ、ウィグモアホール、ヘラクレスザール、リンカーンセンター等、世界の名だたるホールのコンサートシリーズに招聘されるなど活発な演奏活動の傍らで、ベルリン芸術大学ヴァイオリン科主任教授として後身の指導にも情熱を傾けている。

Mark Gothoni (Violin)

Finnish violinist Mark Gothoni studied with Ana Chumachenco, Shmuel Ashkenasi and Sandor Vegh. As prize-winner of several international competitions he is performing as chamber musician and soloist, while holding a post as professor at University of Arts in Berlin and teaching also at master classes around the globe. He served as concertmaster of the Zurich and Munich Chamber Orchestras and he performed frequently also as musical director of the European Union Chamber Orchestra. As first violinist of the Orpheus Quartet and member of the Mozart Piano Quartet he has a wide discography of which several have won international prizes.



Yasuhiro
Suzuki

鈴木 康浩 (ヴァイオリン)

読売日本交響楽団ソロ・ヴァイオリン奏者。5歳よりヴァイオリンを始め、桐朋学園高等学校音楽科を経て桐朋学園大学卒業。卒業後ヴァイオリンに転向。第47回全日本学生音楽コンクール東京大会高校の部第1位ほか受賞多数。2001年よりドイツのカラヤン・アカデミーで研鑽を積み、ベルリン・フィルの契約団員となる。またサイトウ・キネン・フェスティバル、宮崎国際音楽祭など多方面で活躍を続けている。

Yasuhiro Suzuki (Viola)

Yasuhiro Suzuki is a principal solo violist with the Yomiuri Nippon Symphony Orchestra. He began studying the violin at the age of five, and graduated from Toho Gakuen College of Music after studying at Toho Gakuen Music High School. After graduation, he changed instruments from the violin to the viola. Suzuki has won many prizes, including 1st Prize in the high school division of the Tokyo round of the 47th Student Music Concours of Japan. Suzuki trained at the Karajan Academy in Germany starting in 2001, and became an associate member of the Berlin Philharmonic. His wide-ranging activities also include appearances at the Saito Kinen Festival and the Miyazaki International Music Festival.



©Hisashi Morifuji

Ayako
Tahara

田原 綾子 (ヴァイオリン)

東京音楽コンクール、ルーマニア国際音楽コンクール優勝。読響、東響、東京フィル、都響等と共に、室内楽奏者としても国内外の著名アーティストと多数共演するほか、オーケストラの客演首席も務めるなど、活躍の幅を広げている。デトモルト音楽大学にてファイト・ヘルテンシュタインに師事。サントリー芸術財団よりPaolo Antonio Testoreを貸与されている。第23回ホテルオークラ音楽賞受賞。

Ayako Tahara (Viola)

Japanese violist Ayako Tahara, won the prize at Tokyo Music Competition and International Romania Music Competition. She performed the recital and the concertos for solist with many orchestra. As a chamber musician, she has performed with many great artists around the world. Tahara graduated with honors the Toho Gakuen College with Nobuo Okada and Hamao Fujiwara and Ecole Normale de Musique de Paris with Bruno Pasquier. And studying Hochschule für Musik Detmold with Veit Hertenstein. She has been awarded The Hotel Okura Music Award.



©KING RECORDS

Rei
Tsujimoto

辻本 玲 (チェロ)

東京芸術大学音楽学部器楽科を首席で卒業後シベリウス・アカデミー、ベルン芸術大学に留学。2009年ガスパール・カサド国際チェロ・コンクール第3位入賞(日本人最高位)。2013年齋藤秀雄メモリアル基金賞を受賞。2019年CD『オブリヴィオン』をリリース(「レコード芸術」誌特選盤)。NHK交響楽団首席チェロ奏者。使用楽器はNPO法人イエロー・エンジェルより1730年製作のアントニオ・ストラディヴァリウスを、弓は匿名のコレクターよりTourteを特別に貸与されている。公式サイト <http://www.rei-tsujimoto.com>

Rei Tsujimoto (Cello)

Rei Tsujimoto, principal cellist of the NHK Symphony Orchestra, is a premier prix graduate of Tokyo University of the Arts. He continued his studies at the Sibelius Academy in Finland and Hochschule der Künste Bern in Switzerland. He was awarded second place as well as the Audience Award at the 72nd Music Competition of Japan. In 2007, he was granted third place at The Gaspar Cassado International Violoncello Competition.



©Sihoo Kim

Michiaki
Ueno

上野 通明 (チェロ)

若い音楽家のためのチャイコフスキー国際音楽コンクール、ルーマニア国際音楽コンクール、ブラームス国際コンクール、ジュネーヴ国際音楽コンクール優勝、ルトスワフスキ国際チェロコンクール第2位等、名だたる国際コンクールにて次々に実績を上げ、国内外のアーティスト、主要オーケストラと多数共演。岩谷時子賞奨励賞、青山音楽賞新人賞受賞。桐朋学園大学SDコース全額免除特待生として毛利伯郎氏に師事し、現在デュッセルドルフ音楽大学にてP.ウイスペルウェイ、エリザベート王妃音楽院にてG.ホフマンに師事し、更なる研鑽を積む。1758年製P.A. Testore(宗次コレクション)使用。

Michiaki Ueno (Cello)

Michiaki Ueno has won 1st Prizes in the International Tchaikovsky Competition for Young Musicians, the Romanian International Music Competition, the Johannes Brahms International Competition, and the Geneva International Music Competition, as well as 2nd Prize in the Witold Lutoslawski International Cello Competition. He has performed with many artists and orchestras both in Japan and overseas, earning favorable recognition. He has also been awarded the Iwatani Tokiko Incentive Award and the Aoyama Music Award New Face Award. Ueno studied with Hakuro Mori at the Toho Gakuen College Music Department, and currently studies with Pieter Wispelway at the Robert-Schumann-Hochschule Düsseldorf, Gary Hoffman at the Queen Elisabeth Music Chapel. A P.A. Testore cello has been loaned to him from the Munetsugu Collection.